



第205號 (第 18 卷)

(昭和13年) 5 月 號

この頃の話題

天文關係の建議案

去る3月8日、東京で開會中の衆議院に、福田代議士から“國立太陽觀測所設立建議案”が提出せられ、重ねて、又、同9日には、服部作田兩代議士から、“國立黃道光觀測所設立建議案”が提出せられ、賛成者として署名した代議士は何れも三四十名を算した。そして此の2つの建議案は3月17日午後、衆議院内で開かれた建議案委員會に一括して上程せられ、提出者の説明について、松山代議士の熱烈なる賛成演説があり、其の席に、政府委員として出席してゐた内ヶ崎文部政務次官は亦極めて熱心な賛成の意見を發表された由である。戦時の如き非常時體制にある現代に於いて、之れは實に珍らしい議院風景であつて、國內の輿論と、實力とに、尙ほ綽々たる餘裕あることを示すものであると共に、殊に我が國の天文文化の發展のため、極めて重要なエポクを劃するものと言はねばならない。以下にこの建議案の全文を載せて、學術史上の記録とする。

太陽の觀測が人類の實際生活上に重要であることは、日々其の認識が強くなりつゝある。殊に、此の頃のやうに、黒點の増大しつゝある時機に於いては、全世界の人々は、國の境界線を超越して、一致協力、此の宇宙現象の研究と、其の應用とを努めなければならない。

黃道光の研究に至つては、比較的に新しい問題ではあるが、1935年のパリ市に於ける國際天文同盟總會の決議以來、急に其の重要性が高調せられ、殊に此の黃道光の中央局が我が國に置かれるやうになつて、愈々我が學界の世界的責任の重きを感じる次第である。

衆議院が今日の如き場合に、此の如き重要な建議案を2つまでも一致して採擇したことは、國家の文化進展上、非常に注意すべきことである。